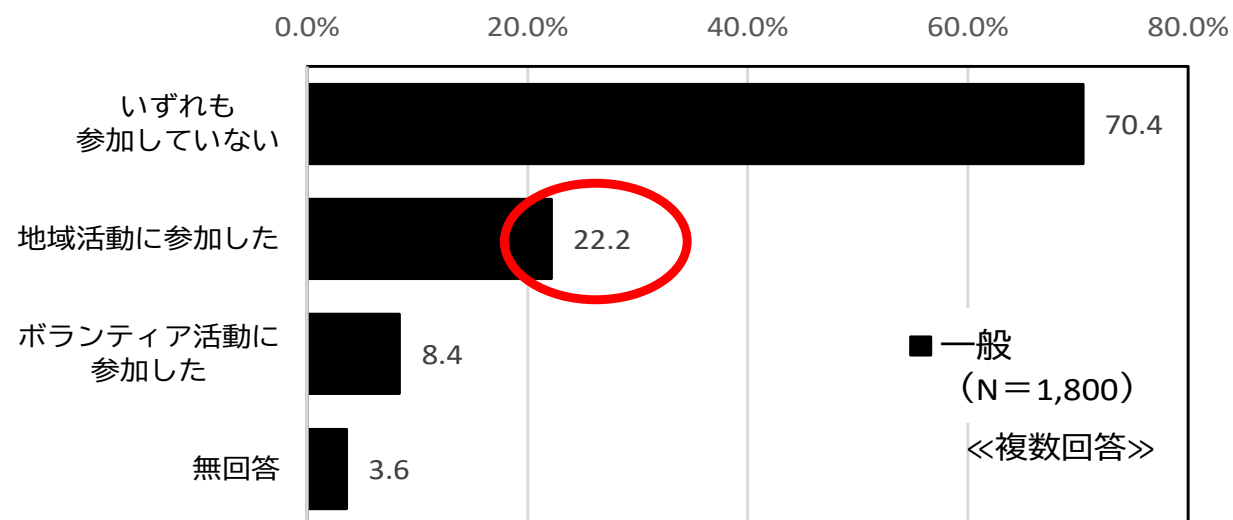


○ 地域活動の状況

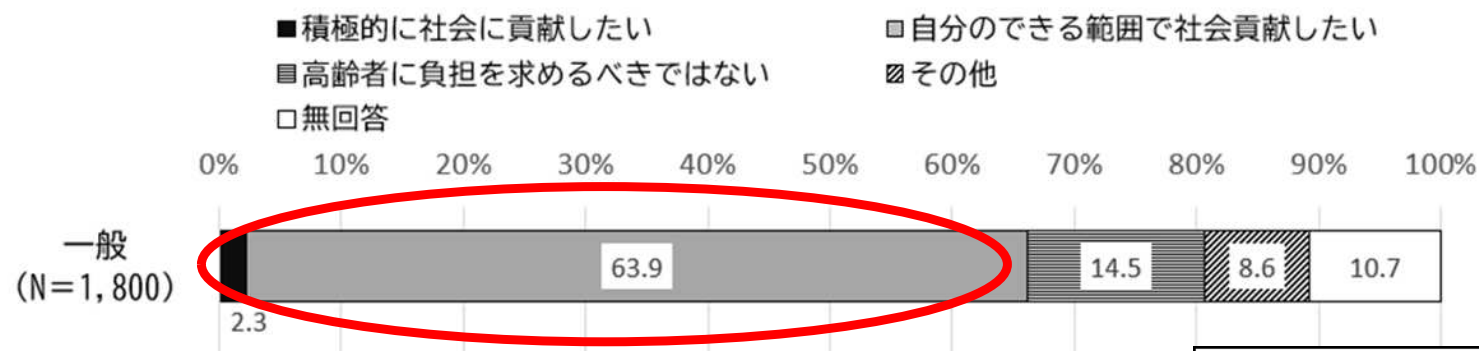
地域活動に参加した割合は約2割



【R4】
20.8%

○ 社会貢献に対する考え

社会貢献をしたい人の割合は約6割



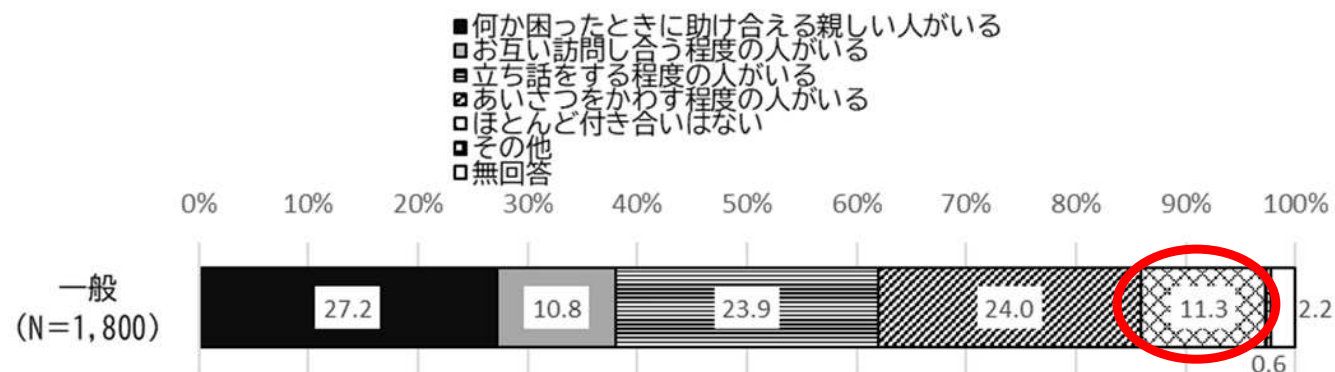
【R4】
 「積極的に社会に貢献したい」 1.7%
 「自分のできる範囲で社会貢献したい」 63.8%
 「高齢者に負担を求めるべきではない」 16.3%

○ 近所づきあい

近所で親しく付き合っている人があるか

ほとんど付き合いはない 11.3%

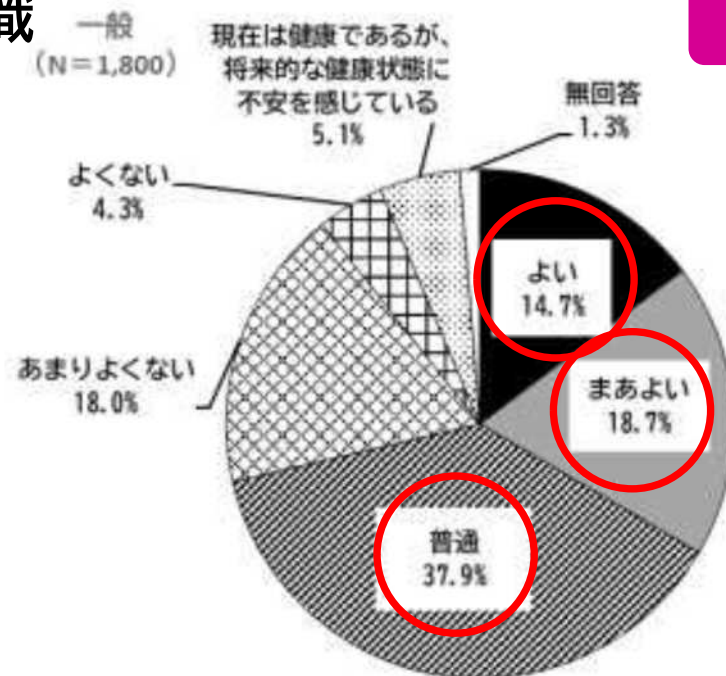
【R4】
12.5%



○ 健康状態に関する意識

約8割が概ね健康

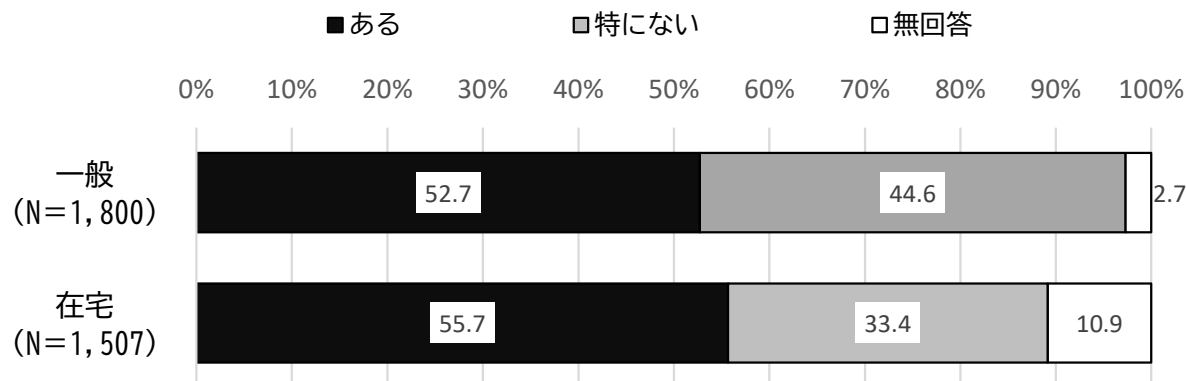
【R4】
78.4%



○ 介護予防（フレイル予防）の取組状況

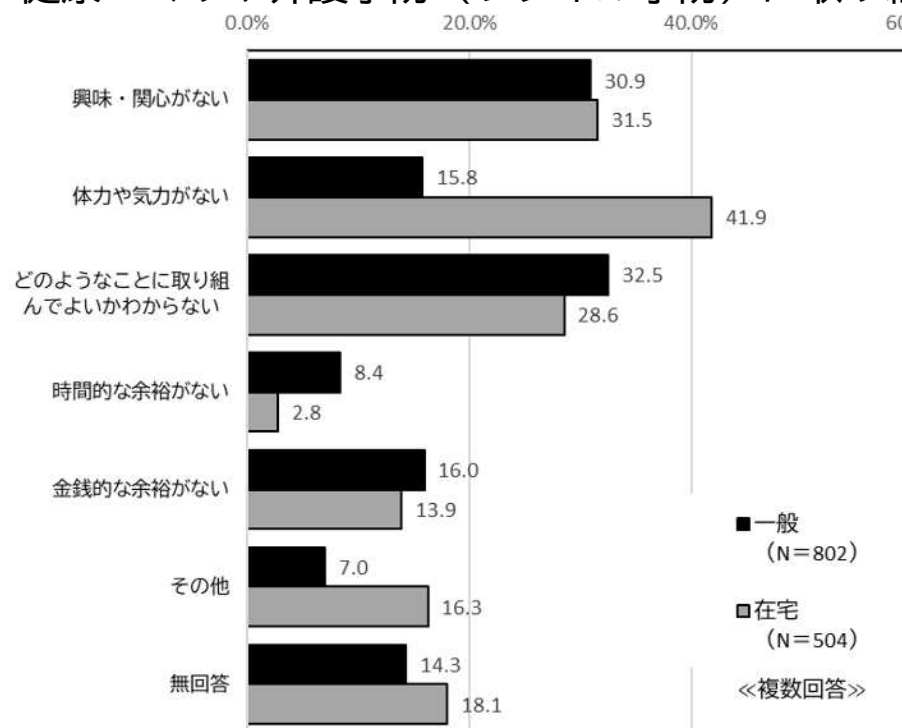
「ある」は5～6割

健康づくりや介護予防（フレイル予防）のために、
日ごろから取り組んでいることがあるか



【R4】「ある」
一般 59.6%
在宅 56.9%

健康づくりや介護予防（フレイル予防）に取り組まない理由



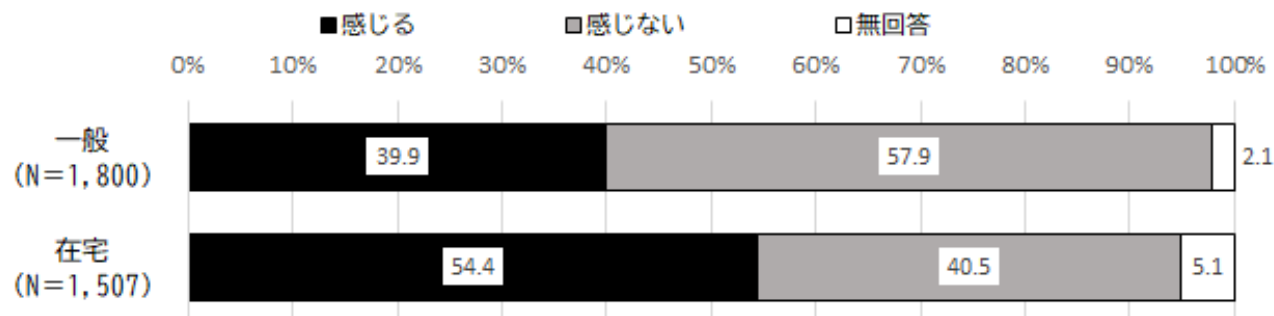
一般「どのようなことに取り組んでよいか分からない」が多い
在宅「体力や気力がない」が多い

【令和4年度】
一般：40.0%「どのようなことに取り組んでよいかわからない」
24.7%「興味・関心がない」
在宅：43.5%「体力や気力がない」
33.9%「興味・関心がない」

○ 聞こえづらさ

会話やテレビの音が聞こえづらいと感じるか

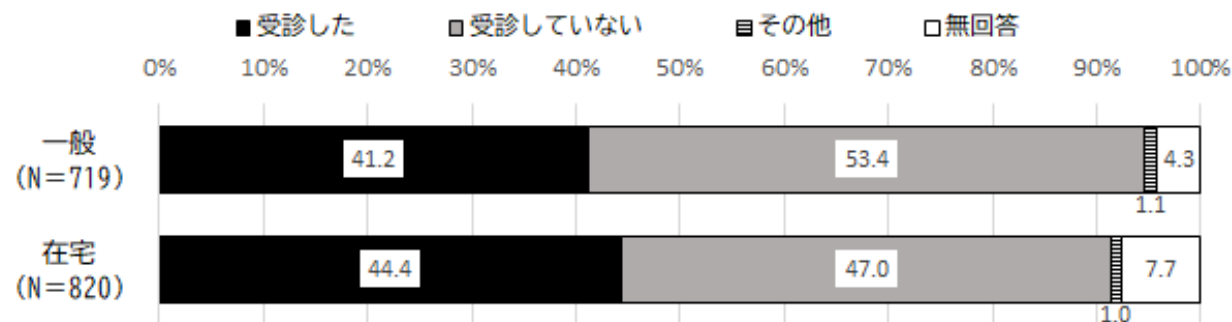
感じる 一般は約40%
在宅は約54%



○ 病院の受診の有無

（「聞こえづらさを感じる」人への質問）
病院(耳鼻咽喉科など)を受診したことがあるか

病院受診は約4割



○ 認知症と聞いて最初に思うこと

認知症への不安が高い

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	家族に迷惑をかけそうで心配である（51.9%）	家族に迷惑をかけそうで心配である（42.1%）	家族に迷惑をかけそうで心配である（65.8%）
2位	「認知症」になっても、自宅で生活続けられるか心配である（39.9%）	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない（36.9%）	「認知症」になっても、自宅で生活続けられるか心配である（42.8%）
3位	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない（34.8%）	「認知症」になっても、自宅で生活続けられるか心配である（34.0%）	どのような生活を心がけていれば、予防できるかわからない（37.2%）

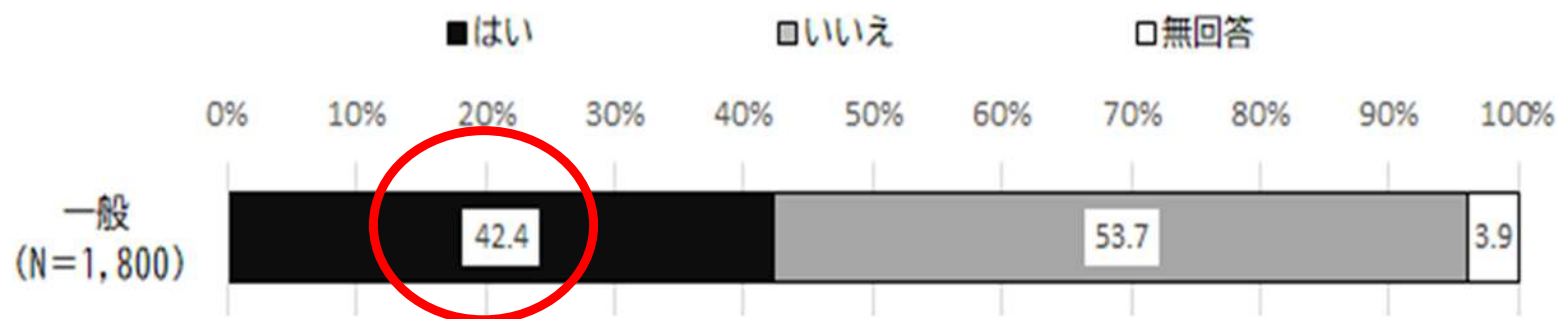
○ 終活

終活に対する不安は多岐にわたる

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	いつから始めたら良いのか分からない（31.3%）	何から手をつけて良いか分からない（30.5%）	何から手をつけて良いか分からない（39.8%）
2位	何から手をつけて良いか分からない（30.6%）	将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安（24.9%）	いつから始めたら良いのか分からない（38.0%）
3位	将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安（29.2%）	不安はない（24.4%）	将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安（36.8%）

○ 地域包括支援センターの認知度

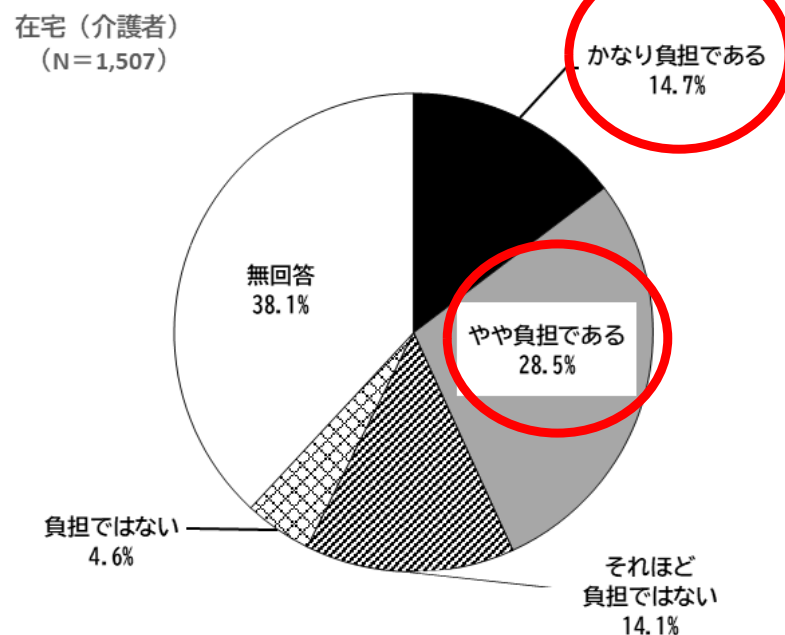
認知度は横ばい



【R4】
43.6%

○ 介護の負担感

介護に負担を感じている 43.2%

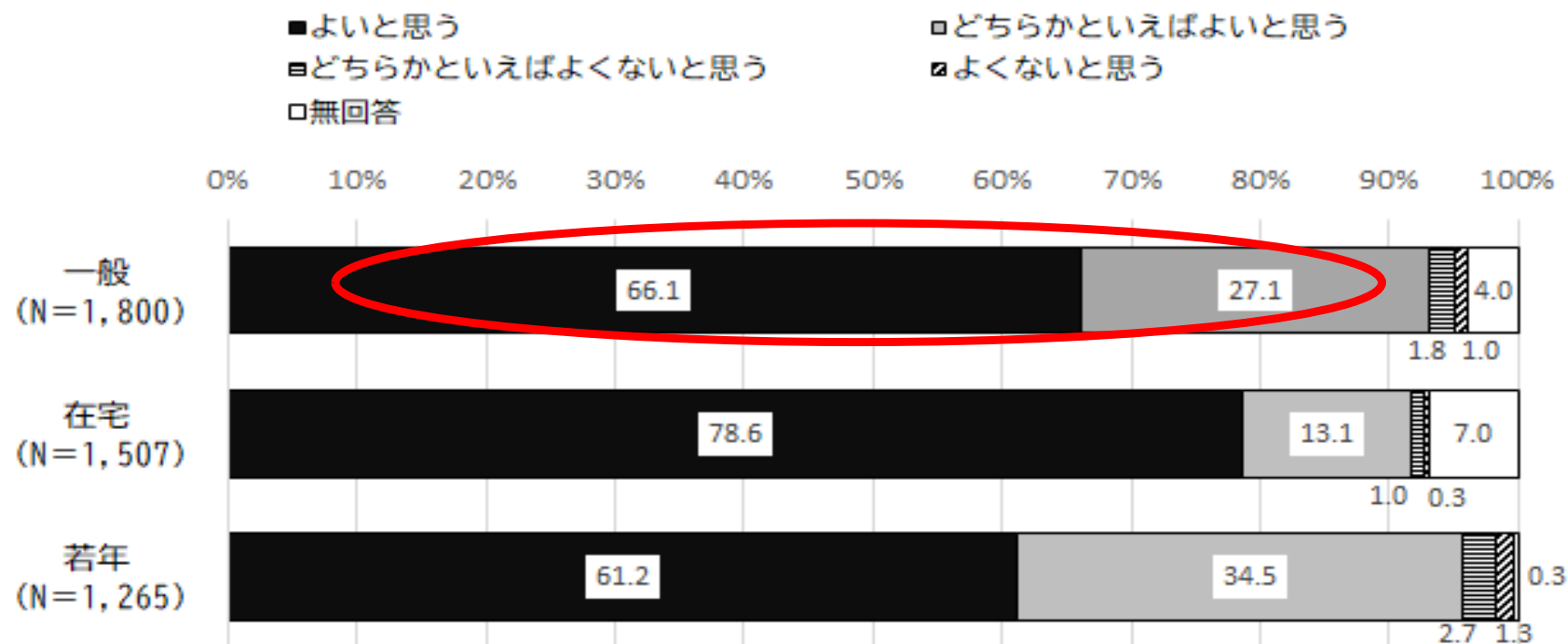


【R4】
40.3%

○ 介護保険制度に対する考え

「よいと思う」、「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合 93.2%

【R4】
93.6%



「よいと思う」 + 「どちらかといえばよいと思う」の合計

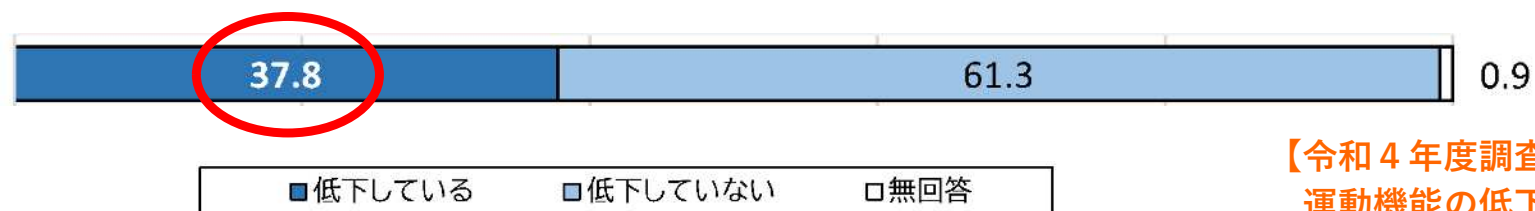
【令和4年度】

一般：93.6% 在宅：90.6% 若年：95.7%

【令和7年度】

一般：93.2% 在宅：91.7% 若年：95.7%

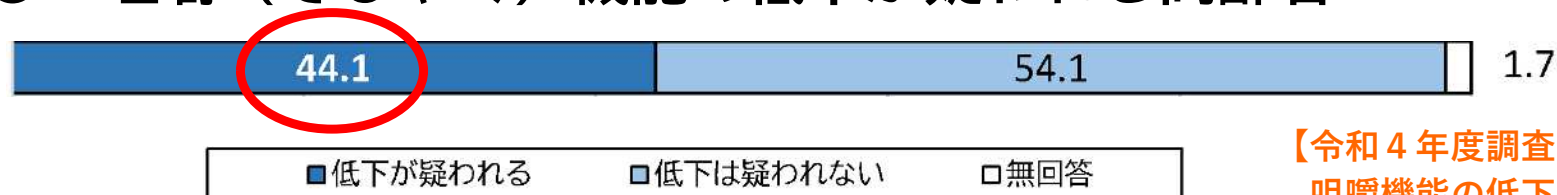
○ 運動器の機能の低下している高齢者



【令和4年度調査】

運動機能の低下している高齢者 40.2%

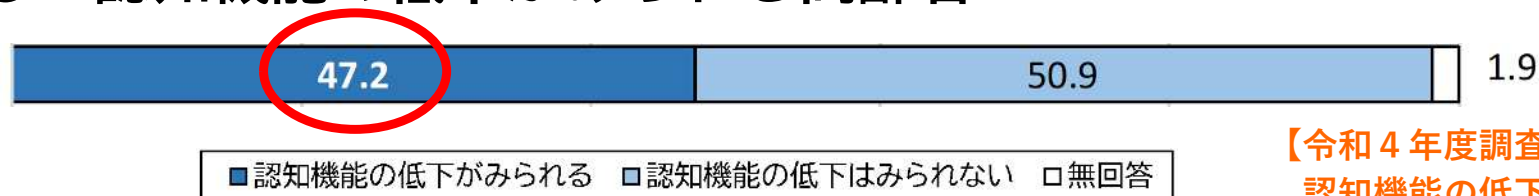
○ 咀嚼（そしゃく）機能の低下が疑われる高齢者



【令和4年度調査】

咀嚼機能の低下が疑われる高齢者 45.2%

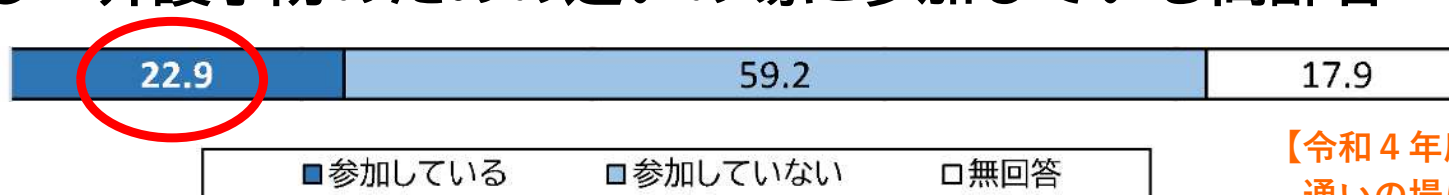
○ 認知機能の低下がみられる高齢者



【令和4年度調査】

認知機能の低下がみられる高齢者 49.2%

○ 介護予防のための通いの場に参加している高齢者



【令和4年度調査】

通いの場に参加している高齢者 19.3%